

平成24年度事業報告書

平成24年4月1日～平成25年3月31日

平成24年度の事業活動は、文部科学省認可（平成13年4月）特例民法法人の最終事業活動として、公益目的事業の意義と継続性を明確にするとともに、公益事業を支障なく運営していくための収益事業も行った。平成25年3月内閣総理大臣からこれまでの公益事業活動が評価され、公益財団法人移行について認定を受け、あらたなスタートができることになった。

平成24年度より、学校に行きづらさを抱かえている小中学生の学校復帰の場「元気の泉」という教室名を「東京大志学園」に改めた。教室での活動内容も、居場所の提供だけでなく、段階的に集団性・社会性・学力を身につけることを意識したプログラムを全国で実施した。その結果、平成24年度に支援した中学3年生の高校進路決定率は100%となり、全会員の学校復帰率も76%と大きく上昇した。また、学習心理支援カウンセラーやピアアシスタントの育成を更に進めるための講座を充実させ、それぞれの資格取得者の増加を図った。

自然体験活動では、首都圏近畿圏において、2泊3日の夏季宿泊体験教室を実施した。自尊心を高めるプログラムを実施しただけでなく、その自尊心が夏以降も持続されることが重要と考え、行事1か月後に、参加児童生徒、保護者を対象に「思い出振り返り会」を実施し、写真や映像を使って「できた体験」を再確認する場を提供した。アンケートによれば、宿泊行事直後に「学校に行けそうだ」と回答した生徒は20%であったが、「思い出振り返り会」では25%となった。

環境教育ポスターコンクールは、全国展開への周知が進捗しつつあり、各学校において厳選され優れた作品が応募された。寄せられた作品は、参加校の増加もあって、環境について年代を超えた心に残る標語や取り組みへの必然性を訴えるものが多く、子ども達はエネルギーなど環境への意識が高いことが評価できた。今年度は、環境省の承認のもと最優秀作品に対し、環境大臣賞を授与することが認められるなどその取り組みが高い評価を受けた。

その他、会報誌の発行やホームページをより見やすいものに改善し、広報面の充実を図った。

平成24年度の活動の主な内容は以下のとおりです。

1. 運営に関する事項（略）

2. 事業に関する事項

(1) 子どもの教育に関する講演会、学習会、講座の開催

①中学生のための高校進路説明会・相談会

(ア) 実施日（回数）：①平成24年9月7日②平成24年9月21日③平成24年10月7日

④平成25年2月2日⑤平成25年2月2月16日（計5回）

(イ) 対象者及び参加人数：学校に行きづらさを抱かえる中学生2，3年生及び保護者

合計79組121名

(ウ) 場所：①⑤東京大志学園さいたま校②③④東京大使学園本校

(エ) 内容：大規模な情報提供の機会としてこれまで実施してきたが、対象となる中学3年生の多くが高校進学を望んでいるため、「丁寧な進路指導・進路決定率の向上」へと具体的な

見通しを1対1の丁寧なサポートで実現できるよう内容を構成した。その結果、平成24年度東京大志学園の中学3年生101名の高校進学率は100%となった。

②学校復帰支援シンポジウム学校復帰への「みちしるべ」ー

期間は平成24年5月～平成25年3月、対象となる児童の保護者並びに教育関係者等を対象に48回開催し、1,582名の参加であった。各回テーマを設け、講演会や体験談報告を行った。平成24年度は教育関係者が前年5%に対し30%に増えた。

③第4回環境教育ポスターコンクール

期間は平成24年7月～25年3月とし首都圏、西日本の小中高校生を対象に環境を保全するためになにができるかを考える機会となることを願い環境をテーマにした作品を募集し、昨年度を大幅に上回る478校4,595点の応募があった。作品中の舞台は一層の広がりを見せ、想像力豊かな作品や、エネルギー問題に対する意識の高い作品が多かった。

審査委員長川口順子先生をはじめ、建築家安藤忠雄先生、元中学校校長泉妻輝夫先生、日本環境教育学会理事谷口文章先生、女子美術大学教授津田裕子先生、㈱ミウラドルフィンス代表取締役三浦恵美里先生、ことばの杜代表山根基世先生7名の厳正な審査のもと優秀な作品を選出し表彰した。今年度は、環境大臣賞を授与することになり、3作品が選出された。

(敬称略) 環境省、東京都、千葉県、埼玉県、神奈川県、兵庫県、大阪府、京都府、奈良県、岡山県、品川区、新宿区、港区、世田谷区、横浜市、川崎市、千葉市、さいたま市、大阪市、神戸市の各教育委員会、㈱学研ホールディングの皆様からご後援をいただいた。作品の展示会は、㈱学研ホールディング本社、神戸関電ビルディングギャラリー、天王寺動物園展示室、IPU環太平洋大学のご協力を得て巡回展示をした。

④「学習心理支援カウンセラー」研修事業及び資格認定

ー教育機関に関わる学校の先生を対象とした研修ー

教員及び教育機関等の職員等を対象に研修を行い平成24年度は入門課程51名、基礎課程217名、専門課程24名にそれぞれ資格認定を行った。

⑤「ピアアシスタント」の研修事業及び資格認定

ー児童生徒に対するコミュニケーション能力の開発ー

高校生を対象に全国14箇所で開催を行い平成24年度は基礎課程393名、専門課程105名の資格認定を行った。

⑥乳幼児ケアヘルパー（初級）研修講座

幼稚園教諭もしくは保育士資格を有し、教育・児童福祉等の分野での仕事に従事する者を対象に研修講座を設け受講者51名のうち26名の資格認定を行った。

⑦子育て支援プロジェクトリーダー研修講座

保育園・幼稚園・児童館・子育てNPO等地域の子育て拠点の事業の企画・運営・指導に関わっている者を対象に研修講座を設け受講者11名のうち7名の資格認定を行った。

⑧中学生の進路選択支援事業

中学生の保護者・教育関係者等を対象に中学生の進路選択支援の手立て、あり方を考えていくことを目的にフォーラムを開催した。参加者154名

⑨教育施設の運営

通信制等の課程に在学する高校生を対象に生徒の教育学習の向上・社会的対応能力の習得への支援活動を行うための教育施設を鹿児島県で運営し、この施設で学ぶ222名の生徒の教育学習の向上・社会的対応能力の修得への支援活動を行った。

(2) 子どもの教育に関する調査研究「こどもの育ちを考える研究会」活動

「生きる力」を育む教育のあり方

ー子ども理解、教育連携、こころの健康教育の視点からの実践検討ー

①「こどもの育ちを考える研究委員会」

大学教授の専門家9名で研究委員会を構成し、年5回開催、発達障害等様々な教育課題を内包しつつ、人としての成長の道を歩む子どもへの支援のあり方を研究する。

②生命（いのち）と心の教育研修会

教員、指導者、大学院生等を対象に「事例から子どもたちの育ちを考える」「学習の場で、不適応状況にある子どもへの支援のあり方支援のあり方」などについて講師とグループ討議を行う研修会を開催し、各学校の連携を図る窓口となった、課題解明の進化につながる見通しが持てた。

③こどもの育ちを考えるシンポジウム

教職員、指導者等を対象に生命（いのち）と心の教育についてー発達障害のある子ども理解をいかにすすめるかーを基調講演を行い、ワークショップを実施。多くの議論と問題を掘り下げながらのワークショップは、聴くだけではなく、参加型シンポジウムとなった。

(3) 子どもの自然体験活動、社会奉仕体験活動その他の体験活動の場の提供

①自然体験活動の実施

児童・生徒及びその保護者を対象に野外活動施設を利用し、自然環境に親しむ中でのキャンプその他体験の体験プログラムを全国14都道府県で実施し、子どもたちの学校復帰への第一歩となるコミュニケーション力の向上や自主性を育み、社会適応力など育成支援を行った。

②桜を見る会

東京大志学園の児童生徒及び関係者が昨年度同様、都内有数の桜の名所目黒川沿いにある(株)ドン・キホーテ本社1Fの特別桟敷席に招待された。桜の開花を楽しみながら、

コミュニケーションスキル、集団活動に参加する楽しさを学ぶ機会となった。

③自然体験キャンプ活動

—子どもゆめ基金助成事業（独立行政法人国立青少年教育振興機構）—

東京大志学園及び一般の児童生徒を対象に大学教授の講師を得て夏休みを利用して宿泊を伴う大自然の中でのキャンプを兵庫県明石市立少年自然の家、千葉県千葉市少年自然の家の2箇所で行った。大自然の中で、自分を見つめなおす機会を持つことにより、集団の中で自分ができることを再確認したり、また、世代との関わり合いの楽しさ等を学んだりした。キャンプ実施後の報告会を行うことによって、生徒の自尊心の定着を図った。また、保護者にとっては、子ども達の笑顔の写真等をみせることによって子育てに対する自信回復を図った。また、アンケートによれば、宿泊行事直後に「学校に行けそうだ」と回答した生徒は20%であったが、「思い出振り返り会」では25%となった。

（4）子ども教育に関する相談事業

①子ども達の悩み等のカウンセリングを行うための個別教育相談会及びグループ相談会

学校に行きづらさを抱えている児童・生徒、保護者、教員他を対象に克服・改善への対応の仕方、スキル、心理対応等の臨床的カウンセリングを全国14箇所延べ1,266名実施した。

（5）学校にいきづらさを抱えている児童・生徒の学校復帰に対する支援

①学校復帰に向けた段階的支援・教育の場「東京大志学園」の運営

学校に行きづらさを抱えている小中高校生及び保護者を対象にして、これまでの活動をさらに充実させ、学校に行けるようになるだけでなく、学校・社会で夢と自信をもって生活できるよう育てる事を目標としていくために自信をもって生活できるよう育てることを目標としていくために、平成24年4月1日より「元気の泉」という教室名を「東京大志学園」へ改めた。活動内容は、これまでの心のケア中心の支援体制から、学力・コミュニケーション力・目標に向かってチャレンジする力を、子どもの段階に合わせスモールステップで育てていく「段階的支援」を全国14箇所で386名に実施した。その結果、平成24年度支援を行った会員の学校復帰数（在学学校復帰、部分登校、別室登校、進学復帰全てを含む）は、281名（復帰率73%）となり昨年度258名（68%）より上昇した。さらに、進路指導面では、高校生ピアアシスタントによる受験対策プログラムを導入したことで、中学3年生（全国で101名）の高校進学率が100%となった。

②子どもの居場所と親の役割を考える会（親の会）

親の会は、会員保護者、及び未会員参加希望保護者を対象に講師、スタッフを交えての勉強会と保護者同士の懇親会の場となっている。毎回さまざまなテーマを取り上げ、心理学的な面を通して子どもとの関わりについて考えていく機会にしている。全国15箇所月1回程度年72回実施。

(6) 子どもの教育に関する国際交流事業

保護者等への国際教育に関する交流を企画し、海外の教育事情、自然、文化、歴史等に
触れ、体験することで、より広い視野に立ち、自らの子ども達の教育育成に寄与できる
ような支援を行った。ニュージーランド教育事業視察説明会生徒参加28名。

(7) 子どもの教育を支援するための個人や団体に対する奨励金の授与や資金援助

(8) 定期刊行物の発行

子どもの教育に関する今日的課題を積極的に取り上げた機関誌を編集発行した。

メールマガジンの購読勧誘をホームページ等から問い合わせがある都度行った結果購読
者数が昨年度より約150名増えた。

(9) その他目的を達成するために必要な事業

平成24年度から収益事業を行っている。